



動物とセルフィーを撮る時は十分な注意を!

今回、本誌特集で紹介したクオッカやコアラ、ウォンバットは、「レッドリスト (正式名称: 絶滅のおそれのある生物種のレッドリスト)」に指定されている生物です。それらの動物とセルフィーを撮る際には、十分注意を払う必要があります。



「レッドリスト」とは?

スイスに本部を置く国際的な自然保護機関、国際自然保護連合 (IUCN) の各専門分野の研究者グループが、野

生生物について調査し、その結果を元に絶滅危機レベルを決定して、作成したリストが「レッドリスト」です。再調査の結果、数や生息域の変化によっては、リストにある危機レベルは変動します。

レッドリスト

世界には、様々な理由により絶滅の危機に瀕している野生生物がいます。リスト内の『Critically Endangered (CR / 絶滅危惧 IA 類)』、『Endangered (EN / 絶滅危惧 IB 類)』、『Vulnerable (VU / 絶滅危惧 II 類)』に位置づけられている野生生物が、一般的に「絶滅危機種」と言われ、約 2 万種以上存在するとされています。また、現在までに存在が認められている世界の哺乳類は 5,513 種となっていますが、なんとその内の 1,199 種がこの「絶滅危機種」に指定されています (2014 年 11 月時点)。

※呼称は、IUCN 日本委員会で使用されているものとする。

※世界自然保護基金 (WWF) は IUCN の補完的な機関として設立された経緯をもち、現在は独自の活動も行いながら絶滅の危機に瀕している野生生物の保護に関する全般的な活動も行っている、世界最大規模の自然環境保護団体 (国際的 NGO)。

	カテゴリー	呼称
絶滅危機のレベル	Extinct	EX 絶滅
	Extinct in the Wild	EW 野生絶滅
	Regionally Extinct	RE
	Threatened categories (絶滅危機種 <呼称は WWF より>)	
	Critically Endangered	CR 絶滅危惧 IA 類
	Endangered	EN 絶滅危惧 IB 類
	Vulnerable	VU 絶滅危惧 II 類
	Near Threatened	NT 準絶滅危惧
	Least Concern	LC 軽度懸念
	Data Deficient	DD 情報不足
低	Not Applicable	NA
	Not Evaluated	NE

レッドリストに挙げられている野性生物 (哺乳類) の一例 ※和名は日本国厚生労働省より引用

主に西オーストラリア州に生息

Woylie (CR / 絶滅危惧 IA 類) フサオネズミカンガルー	Bilby (VU / 絶滅危惧 II 類) ミミナガバンディクート
Dibbler (EN / 絶滅危惧 IB 類種) アンテキヌスモドキ	Burrowing Bettong (NT / 準絶滅危惧) シロオビネズミカンガルー
Numbat (EN / 絶滅危惧 IB 類) フクロアリクイ	Chuditch (NT / 準絶滅危惧) オグロフクロネコ

主にオーストラリア (西オーストラリア州以外) に生息

Tasmanian Devil (EN / 絶滅危惧 IB 類) タスマニアデビル	Koala (LC / 軽度懸念) コアラ ※オーストラリアでは国全体でコアラの保護を定める法律はなく、保護のレベルも各州政府に委ねている。
Common Wombat (LC / 軽度懸念) ヒメウォンバット	Yellow-bellied Glider (LC / 軽度懸念) オオフクロモモンガ



なぜ保護する必要がある?

地球には、人間や動物以外にもあらゆる生命が存在しています。それら全ての生物は、繋がりをもち、お互いを支えあって生息しています。この繋がりを「生物多様

性」と言い、古くから地球に存在していました。しかし、人類の環境破壊によりその繋がりが閉ざされようとしています。つまり、繋がりを断たせた生物=絶滅の危機に瀕している生物を保護することは、「生物多様性」が保全することになり、それは地球の一構成員である人間にとって必須なことだからです。